

第1章

30年のあゆみ

1993年度以前
(昭和63年度～平成5年度)

1994年度
(平成6年度)

1995年度
(平成7年度)

生涯学習活動成果
展「趣味のペーパー
アート」
(9月9日～9月24日)

企画展「ロボットの歴史と未来」
(2月10日～3月30日)

スプリングレ
クチャー 中
村桂子「生命
誌の扉を開く」
(3月10日)

一般公開開始
(11月11日)



巡回展「エネルギー体験館」
(6月10日～6月25日)



初めて企画展示室を使用
した科学展覧会を開催
しました。



県民の生涯学習活動の
発表の場を提供しまし
た。(H13年度まで)



からくり人形から最新のロボット
までを紹介しました。



総合科学博物館調査研究
委員会設置
(昭和63年12月3日)

総合科学博物館調査研究
委員会の基本構想の知事
への答申
(平成3年6月4日)
建設候補地を新居浜市と
する。

総合科学博物館開設
準備室設置
(4月1日)

落成式を举行
(11月10日)



入館者数10万人達成!
(1月16日)

サマーレクチャー 荒牧重雄
「火山噴火のメカニズム」
(8月19日)



愛媛県総合科学博物館
友の会設立
(10月1日)

入館者数50万人
達成!
(3月3日)

建築工事着工
(平成4年12月12日)



展示品等整備工事着工
(平成5年7月10日)

愛媛県総合科学博物館、公の施設
として設置
理化学研究所理事長 有馬朗人氏
が館長に就任
(10月1日)

〈プロフィール〉
昭和5年、大阪生まれ。
昭和28年3月、東京大学
理学部物理学科卒業。
物理学者、俳人。
東京大学総長、理化学
研究所理事長、文部大臣、
科学技術庁長官、参議院議員などを歴任した
ほか、(財)日本科学技術振興財団会長、科学技術館
館長を務めました。原子核構造論を専門とし、
原子核の電磁氣的性質と集団運動現象の研究
で成果を挙げ、日本学士院賞等の数々の賞を
受けました。



開館記念シンポジウム
(平成7年2月11日)



有馬朗人館長による基調講演と「博物
館と科学教育—博物館の楽しみ方—
」をテーマにパネル討論を行いました。

夏休み特別展「夏だ!おも
しろ博物館」
(8月13日～8月31日)



初の学芸員による期間展示を開催しま
した。自然史、産業標本の展示と科学工作
を行いました。

生涯学習県民講座
畑正憲「ムツゴロ
ウ、大いに語る!」
(10月28日)



各界で活躍している
有名な講師を招聘し
生涯学習意欲の醸成
を図りました。(H15年
度まで)

プラネタリウム世界最大
認定記念プラネタリウム
シンポジウム、プラネタ
リウムコンサート
(12月17日)



小尾信彌氏による基調講演と「プラネタ
リウムの楽しみ方」をテーマにパネル討論
会を行い、ハープ奏者小倉知恵子とack-
ack'6iによるコンサートを催しました。

東予芸術文化事業
「神崎愛のフルート
コンサート」
(2月4日)



芸術文化団体の活性化
を図りました。
(H14年度まで)

1996年度
(平成8年度)

企画展「恐竜」
(平成8年7月14日～9月1日)



恐竜が生きた中生代の森を再現したジオラマや植物食恐竜パラサウロロフスの全身骨格(複製)を展示しました。この骨格標本は、常設展示自然館に展示しています。



ロボット相撲大会新居浜場所
(平成9年2月22日)



前年度の企画展関連イベントをきっかけに、この年から独立した事業として開催。県内の工業高校7校が参加し、自立型、ラジコン型の2部門をトーナメント形式で競いました。(平成15年度まで)

1997年

科学講演「科学の楽しさ大切さ～熱とエネルギー～」
(8月4日)



有馬朗人館長による科学講演。熱とエネルギーに関する原理や法則について実験道具を使って紹介しました。



サマーレクチャー
小島郁夫「恐竜の謎にせまる」
(8月4日)



生涯学習県民講座
ピーター・フランク
ル「こころ豊かな生き方を考える」
(11月10日)



スプリングレクチャー
黒田玲子「右の世界左の世界」
(3月10日)



1997年度
(平成9年度)

企画展「出発進行!愛媛の鉄道
～坊っちゃん列車から未来の鉄道～」
(7月13日～8月31日)



鉄道模型や車両のプレートなどを展示し、愛媛県の鉄道の変遷を紹介しました。

特別展「欧米の科学博物館」
(4月26日～5月25日)



特別展「宇宙開発の過去・現在・未来」
(10月25日～11月24日)

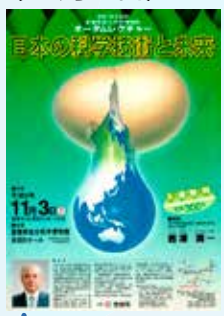


宇宙開発の将来展望について、つくば万博記念財団より借用した巡回展示物と当館独自資料を展示しました。

サマーレクチャー
種村直樹「日本鉄道
ぶらり乗り歩き」
(7月26日)



オータムレクチャー
西澤潤一「日本の
科学技術と未来」
(11月3日)



入館者数100万人達成!
(3月21日)

スプリングレクチャー
伊沢紘生「サル社会
の論理と人間社会の
論理」(3月14日)



1998年

1998年度
(平成10年度)

企画展「たんけん!超ふしぎ館」
(7月11日～8月30日)



錯覚や光学現象、仮想現実など、「ふしぎ」と感じる客観的事実と感覚とのずれを実際に体験して楽しむ展示を開催しました。



プラネタリウム
講演会 森本雅樹
「私たちの宇宙
旅行」
(8月12日)



初めてプラネタリウム
で講演会を行いました。

科学講演会
安田喜憲「文明
と環境」
(3月27日)



東予芸術文化業
オペラ公演「ニュー
イヤーコンサート」
～オペラへの招待～
(1月24日)



1999年度
(平成11年度)

GWイベント「世紀の巨大実験ショー」
(4月29日、5月1～5日)



初めてGWに実験イベントを開催。これ以降、巨大実験と題して大規模な実験をGWに実施することになりました。博物館ならではのダイナミックな実験にみんな大興奮!

科学講演会
奥本大三郎「ファール昆虫記と昆虫採集」
(7月25日)



特別展「ふしぎ大陸 南極展」
(12月11日～1月16日)



南極観測50周年を記念した巡回展。南極の氷に触れるコーナーは大人気でした。

科学講演会
山田康之「21世紀の食料と環境」
(3月19日)



テーマ展「川の生きもの」
(4月29日～5月11日)



初めて学芸員が手作した企画展示で身近に生息する川の魚や水草などの生物を展示し、観察体験コーナーも作りました。

館長 有馬朗人氏、退職
(7月20日)

東予生涯学習県民
講座市川森「現代
社会と物語社会文
明と環境」
(12月20日)



特別展「愛媛の鉱山」
(3月6日～4月11日)



愛媛の鉱山の歴史と現状について展示しました。学芸員作成の鉱山マップは、現在でも活躍しています。

日本学術振興会理事長の菊池健氏が館長に就任
(6月9日)

〈プロフィール〉
1929(昭和4)年、松山市出身。理学博士。旧制松山中学、同松山高校を経て、大阪大学理学部物理学専攻。原子核理論で業績を上げる。東京大学原子核研究所助手時代にサイクロトロン建設の一連の実験に従事。その後、ミネソタ大学客員講師から名古屋大学理学部教授を経て、昭和47年高エネルギー物理学研究所の開設と同時に教授に就任。平成元年副所長、平成4年退官。日本の高エネルギー物理学分野の草分けとして活躍。また、日本の学術振興会分野にも尽力し、日本学術振興会の理事などを経て平成10年度から12年度まで理事長を務めました。



企画展「昆虫ワンダーランド」
(7月10日～8月31日)



カブトムシやクワガタの生体展示を行い、多くの入場者で展示室は賑わいました。

館長のおもしろ科学講座
「電気と磁石のふしぎな関係」
(2月13日)



菊池館長も、毎年科学実験講座を開催しました。

2000年度
(平成12年度)

企画展「海のめぐみ」
(7月8日～8月31日)



愛媛の漁業、水産業について模型や生体展示で紹介しました。

移動博物館開催
(11月5日)



近隣小学校へ出向いて博物館標本をみんなで観察しました。

館長のおもしろ科学講座「動くしくみ」
(12月23日)



「動くしくみ」をテーマに、館長と学芸員が楽しい実験を披露しました。

東予芸術文化事業
「民族音楽の調べ」
(12月3日)



2001年

芸予地震発生
(3月24日)

瀬戸内海安芸灘を震源とするマグニチュード6.7の地震が発生し、各地で被害が発生しました。新居浜市でも震度5弱を観測したものの、当館に被害はありませんでした。

館蔵品展「夢と科学のたどった道～20世紀～」
(12月9日～1月14日)



20世紀に発見された昆虫や動植物の標本、発明・開発されたオーディオビジュアル機器やゲーム機などを展示しました。

2001年度
(平成13年度)

企画展「人体」
(7月14日～8月31日)



人体標本を含めた様々な展示で、自分の体の仕組みを知り健康を考える機会となりました。



わくわくワークショップ
(8月13～15日)



学芸員が、友の会科学クラブ員と一緒に科学工作ワークショップを行いました。

2002年

館長のおもしろ科学講座「超超！極寒実験室」(12月22日)



菊池館長と学芸員による実験実演付きの科学講演会。好評につき毎年恒例の行事となりました。今回は、ドライアイスや液体窒素を使った極低温条件下の実験を実演しました。

JSTの助成を受け産業分野の出張授業スタート
(2002年2月～)



JST地域科学館連携支援事業に採択され、小・中・高校へ出向いての出張授業がスタートしました。

企画展記念講演会
酒井健雄「人体を通して見る21世紀の生き方」
(7月20日)



科学講演会 小平圭一「すばるに賭けた宇宙の夢」
(11月11日)



元国立天文台長の小平圭一先生が、すばる望遠鏡の構造や観測成果についてわかりやすく解説されました。



館蔵品展「翼大空へ～航空機と空港を知る～」
(3月17日～4月14日)



空港、航空機、航空図書室の3つのコーナーに分けて、空港で働く人の様子などを展示しました。

入館者数150万人達成！
(8月17日)



2002年度
(平成14年度)

企画展「ふしぎミュージアム」
(4月27日～5月26日)



不思議で楽しい科学の収蔵品を展示しました。

企画展「あなたの声を聞かせてください
『仮想科学館』」(6月1日～6月30日)



どのタイプの科学技術資料が来場者の興味を得たか人気投票を行い、展示更新等の参考にしました。

館長のおもしろ科学講座「電気を作る」
(12月21日)



身の回りの機器類に使われている、いろいろな発電技術について、実験の実演や来場者の体験を通じて紹介しました。

企画展「きれいないし」
(3月22日～5月5日)



美しい色や形の鉱物や誕生石になっている鉱物、愛媛県産の岩石・鉱物、昭和30年代に全国の鉱山から集められた鉱石コレクションを展示しました。

2003年度
(平成15年度)

特別展「わくわく!エネルギー体験館」
(7月12日～8月31日)



電気自動車Q-CARの試乗体験が大人気!今もエントランスに展示しています。

プラネタリウム番組
「モペットくんの星空
ウォッチング講座」投影
(6月14日～9月7日)

プラネタリウムの池でお掃除ロボット「モペット」がプラネタリウム番組に登場しました。番組の声の出演を県内FM放送局のアナウンサーとパーソナリティーが担当しました。



博物館をのぞいてみよう
(8月27日)



普段見ることのできない収蔵庫や作業室など博物館の裏側を見学しました。

小柴昌俊講演会「物理屋になりたかったんだよ」
(11月1日)



ノーベル賞受賞物理学者小柴昌俊氏による科学講演会を開催しました。多くの方が参加できるよう、新居浜市内の大ホールを会場としました。また、小柴氏と県内理数科高校生との意見交換会を実施しました。

2003年

2004年

特別展「花物語～花にかくされたひみつ～」
(7月13日～9月1日)



「何のため、誰のために花は咲くのだろうか?」という疑問にスポットを当て、自然界に潜む植物と動物の巧みな関係や花の歴史と未来について紹介しました。

東予生涯学習県民講座
森村誠一「小説は人生
の証明書」
(11月10日)



科学技術館「不思議アベ
ニュー」コーナーオープン
(3月25日)



企画展「たんけん!超ふしぎ館」
(1998年)で人気だった展示物を
集めて、新コーナーを設置しました。

入館者数200万人達成!(7月12日)



コラム：モペットくん引退



開館当初からプラネタリウムの池のお掃除ロボットとして活躍していました。「モップ」と「ペット」を合わせた名前のモペットくん、くるくると池を動き回る姿がユニークで子どもたちの人気者でした。

館長のおもしろ科学講座「目で見える素粒子」
(12月20日)



素粒子とは何か?その発見の歴史と発見に関係した実験や装置について、実際に実験や来場者の体験を交えながら紹介しました。講演で使った装置類は、現在も常設展示で公開しています。

企画展「愛媛の漁業
宇和海と瀬戸内海」
(2月28日～5月9日)



イベント「夏だ!おもしろ
じっけん祭り」
(8月13日～15日)

お盆のイベントに初めて迫力
ある実験を行いました。



科学記念講演会
小泉武夫「発酵の神秘」
(11月16日)

2004年度
(平成16年度)

GWイベント「わくわくミュージアム」
(5月3日～5日)



学芸員が、友の会科学クラブと一緒に熱気球・大気圧実験など毎日違うテーマの実験を実演しました。

企画展「みて!さわって!つくろう! 昔のおもちゃ」
(1月22日～2月20日)



昔のおもちゃを作ったり、遊んだりして物作りの大切さを学ぶほか、現在の遊びの形態や現在と昔のおもちゃの素材の素材の違いを紹介しました。

企画展「別子銅山写真展 ～日和佐初太郎のレンズが語る懐かしき時代～」
(3月5日～5月15日)



昭和30年頃の銅山で働く人々の様子や町の風景、暮らし等の写真90点を展示しました。学芸員によるスライドショーも好評で、入場者数は2万人を超えました。

開館10周年記念イベント (11月13～14日)



記念式典やサイエンスライブショー、有馬朗人初代館長による科学講演会などを行いました。

特別展「すごいぞ!むかしの生きもの」
(7月10日～8月31日)



生命誕生から哺乳類に続く進化について展示し、生きものには、長い進化の歴史があることやどのように進化してきたのかを紹介しました。

館長のおもしろ科学講座「まわすまわる まわったら」
(12月23日)



科学技術館「宇宙をめざして」コーナーオープン
(3月)



H-II Aロケットエンジン模型や宇宙服、ジャイロスコープ体験展示などの新展示が導入されました。

2005年度
(平成17年度)

特別展「さわって!あそんで! おもしろ科学ワールド」
(7月9日～9月4日)



2005年の世界物理年に合わせて、さまざまな物理法則や現象を実際に体験する展覧会を開催しました。体験装置のほぼ全てを内製し、開催後多くの装置を常設展示に移設しました。

科学講演会
福井康雄「大宇宙の誕生」
(8月6日)



企画展「愛媛の鉄道写真展」
(12月3日～1月29日)



愛媛県の鉄道の変遷を写真で巡るほか、愛媛の駅舎の写真を展示しました。

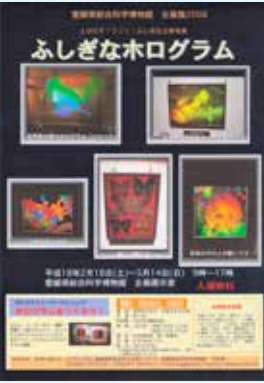
日本科学技術振興財団会長
有馬朗人氏、名誉館長就任
(4月1日)



プラネタリウム講演会
赤祖父俊一「オーロラを知ろう～赤祖父先生が語るオーロラのすべて～」
(11月3日)



企画展「ふしぎなホログラム」
(2月18日～5月28日)



平面の中に立体映像を記録した「ホログラム」の展覧会を開催しました。

イベント「みんな集まれ!わくわくサイエンス広場」
(3月22日～23日)



この年から、理科教育を行う施設、企業、学校、団体などが当館に集まって、来館者に実験や工作を体験してもらうイベントが始まりました。

2006年度
(平成18年度)

特別展「昆虫No. 1決定戦」
(7月15日～9月3日)



昆虫の美しさ、賢さ、大きさ、強さのそれぞれ
No.1を標本と生体を用いて展示しました。

企画展「WARNING!地球温暖化」
(12月2日～1月8日)



地球温暖化の問題を取り上げ、現状やメカニズム、
今後の影響を解説するとともに、身の回りで見られる
温暖化対策の取組などを紹介しました。

企画展「博物館講座展」
(3月24日～5月13日)



過去に開催した博物館講座について、
成果品や講座内容の解説パネルで
紹介しました。

2007年

企画展「秋の草花」
(9月16日～11月26日)



愛媛県内の里地・里山で観察することの
できる草花100種類を写真と押し葉標本
で展示しました。

企画展「八幡浜の水産業」
(1月20日～3月11日)



愛媛県八幡浜の水産業について、実際の操業映像や模型・資料などを展示しました。

2007年度
(平成19年度)

特別展「きら☆ぴか☆りん ふしぎな光ミュージアム」
(7月14日～9月2日)



光をテーマに、きれいな色の光
や不思議な錯覚を見せる作
品を展示し、色や像の美しさ
や科学的性質について紹介
しました。



2008年

企画展「愛媛の航空路 今昔」
(10月6日～12月2日)



松山空港や航空機の歴史に
ついて、実物資料、模型、
写真や解説パネルなどを展示
しました。

企画展「天体写真展 星空への招待」
(3月29日～5月25日)



天文学や自然科学への理解を深めるため、博物館
及び天文クラブ所蔵の天体写真や望遠鏡などの
機材を展示しました。

2008年度
(平成20年度)

特別展「KARAKURI
メカのしくみと動きのヒミツ」
(7月12日～8月31日)



身の回りにある道具や機械がどのような構造や仕組みで動いているかについて、からくり人形や作家作品など参加体験型の模型を中心に展示しました。



企画展「森のめぐみ 木のものがたり」
(12月20日～1月30日まで)



動物剥製や植物標本の展示を通じて、森林の自然と歴史を紹介することで、森林の大切さに対する理解を深めました。

企画展「地衣類の世界」
(2月28日～5月10日)



普段意識してみることの少ない地衣類の生物学的な位置づけ、分類、生態などについて、愛媛県内で採取した約200点の標本を用いて紹介しました。

2009年

2009年度
(平成21年度)

特別展「トリックアート」
(7月11日～8月31日)



目の錯覚を巧みに利用した不思議な感覚を楽しめる絵画「トリックアート」を展示しました。トリックアートの展示は当館が愛媛県初開催でした。



企画展「美とメイク」
(12月12日～1月11日)



化粧品の役割やアンチエイジングなど、さまざまな視点から「美」をとらえました。日本科学技術振興財団の巡回展で、当館も企画から参加しました。

かはくナイトミュージアム
in Christmas
(12月23日～25日)



クリスマスイベントとして初めて当館のライトアップを行いました。開館時間を21時まで延長して、暗闇の夜の常設展示も楽しめました。



2010年

企画展「おかしな機械」
(10月4日～11月30日)



当館の科学技術研究科の収集資料である科学技術製品を、技術的な内容より歴史的な側面にスポットを当て、クイズを交えながらわかりやすく紹介しました。



入館者数300万人達成！
(3月15日)



愛媛県立博物館(松山市堀之内)の閉館により、収蔵資料を当館に移管しました。
(3月31日)

指定管理者制度導入
(4月1日)



当館は、平成21年4月1日からイヨテツケーターサービス株式会社(現:伊予鉄総合企画株式会社)が愛媛県から管理運営を引き継ぐこととなりました。

プラネタリウム光学式
投影機GSS-HELIOS
最終投影
(9月27日)

プラネタリウムリニューアル
オープン
(3月20日)



「光学式投影機」の更新と「全天周デジタル映像システム」を組み合わせた、当時、世界最大のハイブリッド・プラネタリウムが完成しました。

マスコットキャラクター
「カハワン」

「カハワン」は、人間に近いロボットの男の子です。手に持っているのはジョウロで、頭の芽は自然を表しています。博物館でたくさんのことを知る小さな子どもをイメージしています。



2010年度
(平成22年度)

小惑星探査機「はやぶさ」が、
7年ぶりに地球に帰還
(6月13日)

特別展「たんけん! ジャン
グルミュージアム」
(7月10日～8月31日)



熱帯雨林に生息する昆虫を中心に
した動植物を紹介しました。

JST女子中高生の理系
進路選択支援事業
四国理系女子会
(11月3日)



四国4県から理系の女子中高生が
集まり、活発な意見交換が行われま
した。

企画展「なぎさの博物館
砂浜」
(2月26日～4月10日)



「サイエンス工房オープン」
(3月15日)

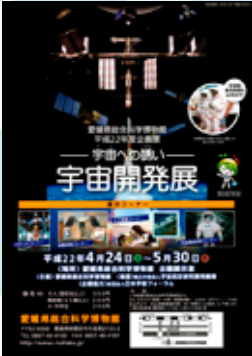


親子で遊びながら学べる憩いのスペース
としてオープンしました。ここで様々な
科学イベントも開催しています。

東日本大震災発生
東北地方を中心に甚大な
被害が発生
(3月11日)

2011年

企画展「宇宙への誘い
～宇宙開発展～」
(4月24日～5月30日)



初めて指定管理者の学芸員が
開催した企画展です。日本宇宙
フォーラムの協力で日本の宇宙
開発を迫力ある資料で展示しま
した。

クリスマスイベント「サイエンスナイト
ミュージアム」
(12月23日～25日)



館内外をイルミネーションで演出し、プラネタリウムでの
ハンドベル演奏会やバルーンアート×サイエンスショー
などを開催しました。
屋外のプロジェクションは指定管理者の学芸員が制作し
ました。

巡回展「森のめぐみ」
(1月29日～3月13日)



正月イベント「新春!初科学」
(1月2日～3日)
来館者の多くの要望に応じて、この年度から
正月イベントを開催することにしました。

2011年度
(平成23年度)

企画展「剥き出しの地球
南極大陸」
(4月23日～6月5日)



愛媛県出身の報道写真家阿部
幹雄氏が参加したセール・ロン
ダーネ山地学調査隊の成果
を紹介しました。

かはく貸出キット
始まる



特別展「スリラー博士の恐怖の
実験室」
(7月9日～9月4日)



科学トリックや錯覚効果を用いた
展示物や映像、演出を通じて、来場者
が普段は体験できない不思議な感覚
を味わえる展示を開催しました。

新型恐竜ロボット完成・自然
館リニューアルオープン
(3月24日)



国立極地研究所と相互協力
に関する協定を締結
(10月1日)



極域科学や南極観測について更なる理
解増進と知識の普及を図ることを目的
として、国立極地研究所と相互協力に関
する協定を締結しました。

2012年

企画展「光で魚を捕る漁業」
(2月25日～4月8日)



魚が光に集まる習性を利用した、集魚灯
を使用する漁業について、その技術の
変遷の紹介や実際の操業について
展示しました。

テーマ展「東日本大震災と博物館
資料～標本レスキュー活動の記録」
(3月10日～4月15日)



東日本大震災から1年を迎えるにあたり、当館で
行った資料レスキュー活動の実態と成果を紹介しま
した。併せて、震災で注目された資料レスキュー
活動に関する報告や論文、震災被害を記録した
資料も展示しました。

2012年度
(平成24年度)

巡回展「光の謎を解き明かせ!」
(4月21日～6月17日)



GWイベント開催
(5月3日～5日)



プログラムのひとつ「ドラム缶つぶし」

特別展「ディノ・ミュージアム～恐竜の生態と進化～」
(7月14日～9月23日)



恐竜への理解を深めるため、各種恐竜の全身骨格や化石を展示しました。また、恐竜の起源と絶滅、生態と進化、海と空の爬虫類、日本の恐竜について紹介しました。



企画展「愛媛の博物誌」
(11月23日～1月27日)



愛媛県立博物館から引き継いだ貝類標本を中心に展示しました。また、県立博物館の開館に尽力した八木繁一氏についても紹介しました。

2013年

企画展「錯視の不思議」
(10月16日～11月11日)



見て触れて体験できる錯視展示を通じて、その不思議な感覚の仕組みや心理的な要素を紹介しました。

企画展「磁石と日本人」
(2月23日～4月7日)



磁石や磁石が使用されている家電製品の展示、磁石の性能を体験できるコーナー、日本人科学者の業績紹介を通じて、磁石開発の歴史を紹介しました。

2013年度
(平成25年度)

巡回展「科学捜査展」
(4月20日～6月23日)



企画展「万華鏡の華麗な世界」
(11月23日～1月13日)



万華鏡の歴史や美しい模様ができる仕組みを体験しながら学べるよう、さまざまな万華鏡を展示しました。



特別展「南極の自然～観測活動とその成果～」
(7月13日～9月16日)



当館自然研究科の学芸員が参加した第54次南極観測隊(夏隊)の観測活動や、南極観測の研究成果について、写真、装備品、実物標本の展示を通じて紹介しました。



入館者数400万人達成!
(8月21日)



2014年

企画展「鉱山絵葉書写真 ～産業近代化の胎動 時代の息吹を感じる～」
(3月15日～4月6日)



住友別子銅山を背景に産業の近代化が進む百年前の新居浜が写った鉱山絵葉書写真をパネル化して展示しました。



2014年度
(平成26年度)

学芸課にグループ制導入

指定管理者制度 第2期開始
(指定管理者イコテツケーターサービス株式会社
平成31年3月31日まで)

特別展「大トリックアート展」
(7月13日～9月15日)



トリックアート特別展第2弾。トリックアートの新作に、強力な大型錯視体験装置も加えて、さらに撮影と錯覚の不思議を楽しみながら体験できる展示を開催しました。

4館合同特別展「村上海賊の世界-その風土と文化-」に参加
(9月27日～10月19日)



県立文化施設である歴史文化博物館、図書館、美術館と合同で開催し、ジャンルを超えて村上海賊の世界を紹介しました。

企画展「愛媛の絶滅危惧種～レッドデータブックと博物館～」
(10月11日～11月24日)



当館が取り組んできた資料収集の成果を基に、改訂版レッドデータブックに掲載予定の絶滅危惧種を紹介しました。併せて、生物の生息環境や生物多様性の保全の重要性についても紹介しました。

青色LEDの開発で中村修二博士、赤崎勇博士、天野浩博士がノーベル物理学賞を受賞(10月)

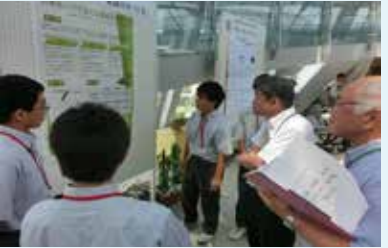
2015年度
(平成27年度)

特別展「アマゾン～ホントはこんなトコだった!」
(7月18日～9月23日)



アマゾン川流域に生息する特色ある生き物を紹介。アナコンダの巨大ロボットが登場!!

中高生のためのかはく科学研究プレゼンテーション大会開催(8月9日)



未来の科学者を育てる事業の一環として実施している科学研究コンテストの第1回目を開催しました。

企画展「めぐみの海瀬戸内海」
(12月12日～1月31日)



瀬戸内海国立公園指定80周年を記念し、瀬戸内海の豊かな自然環境や多様な生き物、人々の暮らしを紹介しました。また、海洋汚染や漂着ゴミなどの課題と、その解消に向けた取り組みも紹介しました。

2015年

2016年

開館20周年記念イベント開催
(11月8・9日)



記念式典や有馬朗人名誉館長による講演会「芸術や科学と対称性～東洋と西洋の見方の違い～」などを行いました。地元大生院地区の太鼓台4台が博物館に集合し、かきくらべて盛大にお祝いしていただきました。

企画展「教授を魅了した大地の結晶～北川隆司鉱物コレクション200選～」
(2月14日～4月5日)



故北川教授が生涯にわたって収集した鉱物コレクションから、特に良質な標本を厳選し、色や結晶などの自然の造形美を楽しめる展示をしました。また、世界的に有名な愛媛の鉱物「輝安鉱」や、愛媛大学が合成した「ヒメダイヤ」も紹介しました。

企画展「なつかしの家電おどろきの道具」
(10月10日～11月23日)



当館資料と増田健一氏の昭和家電コレクションで昭和から平成時代の技術や生活を楽しむ展示。増田氏講演会や資料体験ツアーなど関連イベントも人気を博しました。



企画展「防災の科学～自然災害から身を守れ～」
(2月27日～4月10日)



自然災害はどのようにして起こるのか!そのメカニズムを紹介。防災グッズも紹介!!

2016年度
(平成28年度)

特別展「えひめスゴ技展2016」
(7月9日～9月19日)



愛媛県内にあるものづくり企業の高い技術力を紹介しました。



企画展「地震を探る」
(12月3日～1月22日)



地震観測の画像や動画、調査機材、試料、県内の地震情報を通じて、地震の仕組みや観測方法、最新の研究成果を紹介しました。

講演会「ニホニウム～宇宙の元素誕生から113番元素合成まで～」
(3月26日)



日本発の新元素「ニホニウム」の命名を記念した科学講演会。つくばエキスポセンターと中継して双方向で実験やディスカッションを行いました。

2017年度
(平成29年度)

特別展「VRスポーツサイエンス」
(7月8日～9月18日)



愛媛県での国体開催を契機に、県内のスポーツ競技について科学的に分析しながら体験展示や実物資料で紹介しました。県内プロスポーツ選手のVR体験も行いました。



市民講座「再生医療のいま未来～知っておきたいホントのトコロ～」
(12月10日)



日本再生医療学会との共催で、再生医療をテーマにした講演会と中高生とのサイエンストークイベントを開催しました。

企画展「ホネホネミュージアム」
(2月24日～4月8日)



普段は観察が難しい体内の骨格について、さまざまな動物の骨格標本を用い、その仕組みや働きを紹介しました。

企画展「案外すんでる!身近な生き物」
(2月24日～4月8日)



当館周辺に広がる里地・里山で観察できる動物や昆虫について、学芸員が2年間かけて実際に観察し撮影した写真や昆虫標本で紹介しました。

2017年

2018年

市民講座「新しい医療をのぞいてみよう～iPS細胞と再生医療～」
(9月18日)



日本再生医療学会との共催で、京都大学iPS細胞研究所から講師を招き、新時代の医療に関する講演会とサイエンストークを行いました。このイベントは平成30年度まで続きました。

企画展「永久磁石～見て!触って!学ぼう～」
(10月8日～11月20日)



日本人科学者が携わってきた永久磁石開発を科学技術史として紹介しました。体験展示も人気を博しました。



企画展「地衣類～コケだけど、コケじゃない 藻類?菌類?～」
(2月18日～4月9日)



地衣類の体のつくりや多様な姿かたち、不思議な生き方、研究方法や利用産物など、地衣類の様々な魅力について紹介しました。
※同時開催「100均★自然史グッズ巡回展～身近な道具で自然観察を始めよう」

企画展「カハクンの大宇宙旅行展」
(4月22日～6月25日)



ISTS愛媛・松山大会の関連事業として、宇宙や天体のダイナミックな活動と進化について、宇宙旅行をテーマに楽しみながら学習する企画展示。VR火星旅行体験やミニチュア写真家田中達也氏の作品展示などを行いました。



企画展「体験!エネルギーワールド」
(12月9日～1月28日)



生活に密接に関わるエネルギーについて、その変遷や種類ごとの特性を、体験装置などを用いて紹介しました。



入館者数500万人達成!
(3月10日)



2018年度
(平成30年度)

海の日イベント「プラネ池
であそぼう!ひんやりおもしろ大作戦」
(7月14日～16日)



氷釣り大会や水鉄砲ボール落とし大会など楽しいイベントでプラネ池は盛り上がりました。

特別展「恐竜ロボット
ファクトリー」
(7月21日～9月2日)



生きているかのように動く恐竜ロボットの製作工程を恐竜化石や体験展示を通じて紹介しました。

企画展「周期表発見150周年
元素のマトリクス～星々から生命への贈り物～」
(2月23日～4月7日)



国際周期表年を記念して、周期表の発見・変遷・これから、隕石・鉱物・生命・考古・歴史・美術・文学に関連する元素、元素発見の歴史、最先端の元素研究など、実物資料や体験展示で紹介しました。



2019年度
(令和元年度)

指定管理者制度 第3期開始
(指定管理者伊予鉄総合企画株式会社
令和6年3月31日まで)

企画展「こわいものみたさ
～恐怖を科学する～」
(4月20日～6月23日)



ちょっと怖いけど確認したい、そんな人の不思議な感覚を体感できる展示しました。

特別展「からくりランドの大冒険!!～ゆかいなしかけのおもちゃたち～」
(7月13日～9月1日)



からくりおもちゃの不思議な動きを体験できる世界を展示しました。

企画展「別子銅山・東平の
思い出」
(10月26日～
12月1日)

別子銅山閉山前の東平地区の写真等を展示し、当時の暮らしや銅鉱石の採掘・運搬方法を紹介しました。



標本が語る自然の記憶
・企画展「自然を記録しよう! 標本の作り方」
・企画展「理科室の宝物～学校収蔵標本から地域の自然を再考する～」
(2月22日～4月5日)



2019年

2020年

巡回展「ミクロライフ」
(4月21日～6月3日)



柔らかい繊維や布を使って地下の森をイメージした展示空間で、命のつながりを体験で学ぶ展示。当館の資料を紹介するコーナーも人気でした。



特別展「光と鏡のサイエンスアート
魅惑の万華鏡ミュージアム」
(9月22日～11月11日)



バラエティ豊かな万華鏡の美しい世界を紹介しました。



共催イベント「灯台記念日150周年記念
イベント これぞわかった!灯台のしくみ
と役割」(10月27日・28日)



今治海上保安部と共催で、灯台に関する展示やイベント開催のほか、プラネタリウムコラボ投影を実施しました。

企画展「野生の王国ケニア」
(11月23日～1月27日)



ケニアのマサイマラ国立保護区、アンボセリ国立公園などで観察できるライオン、ヌー、ゾウなどの野生生物を写真と剥製で紹介しました。

企画展「葉で見分ける常緑樹」
(11月23日～1月27日)



一年中緑の葉を茂らせ、どれも同じように見えて見分けが難しい常緑樹の魅力を紹介しました。

ノーベル賞受賞記念展示「リチウム
イオン二次電池の発明」
(12月7日～3月31日)



ノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏の業績を、県内企業関連実物資料を交えて紹介しました。

巡回展「国際周期表年2019
特別展」
(12月14日～1月26日)



国際周期表年実行委員会による特別展で、日本人周期表作家の作品やアジア人の新元素発見、元素標本、超大型周期表など、体験しながら元素と周期表に親しめる展示でした。



科学講演会「ヒッグス粒子の
発見とダークマターの探索」
(2月8日)



新居浜出身の物理学者、田中純一氏による講演会。素粒子研究と体験談をプラネタリウムのドームスクリーンに映し出しながら紹介しました。



2020年度
(令和2年度)

新型コロナウイルス感染症
感染拡大防止のため、臨時休館
(4月18日～5月11日)



春の企画展は取りやめとなりました。
(4月)

EHIME Flower Planet
(12月2～8日)



企画展「小川正孝 アジア
人初の新元素発見者」
(10月10日～11月29日)



愛媛県出身の化学者小川正孝の生涯と
アジア人初の新元素発見について、実物
資料を基に紹介しました。学芸員の研究
成果を元にした企画展で、図録も作成しま
した。

名誉館長 有馬朗人氏 逝去
(12月6日)



写真は11月28日来館した時の様子です。

「NHKサイエンススタジアム2020
with新しい日常」開催
(12月5・6日)



当館のエントランスに設けたサテライト会場から
東京の中継に参加しました。

2021年度
(令和3年度)

新型コロナウイルス感染症
感染拡大防止のため、臨時休館
(4月17日～5月31日)

春の企画展は取りやめとなりました。
(4月)

特別展「探検!化石の世界」
(7月17日～9月20日)



生命の歴史を示す化石を通じて、生物進化や太古の地球環境、
形のおもしろさや美しさなど、化石の魅力を紹介しました。

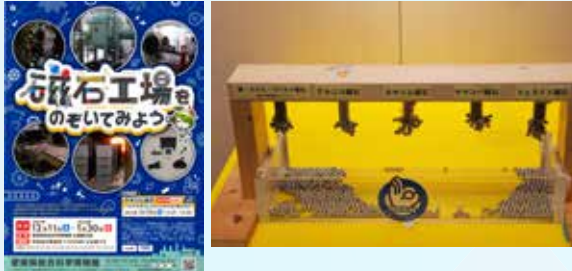
第7回中高生のための
かはく科学研究プレゼン
テーション大会
(8月8日)



新型コロナウイルス感染拡大防止の
ため、オンラインでの開催となりました。

地球の気候の物理的モデリ
ング、気候変動の定量化、
地球温暖化の確実な予測で
真鍋淑郎博士(愛媛県出身)、
クラウス・ハッセルマン博士
がノーベル物理学賞を受賞
(10月)

企画展「磁石工場をのぞいてみよう」
(12月11日～1月30日)



2021年

2022年

臨時休館中「おうちでやっ
てみよう!おもしろサイエ
ンス」
動画の投稿で情報発信
(4～5月)



観望会「部分日食を見よう!」
(6月21日)



夏至の日に起
こった日食を
観望しました。

特別展「世界の昆虫大集合」
(7月18日～9月22日)



地球上のさまざまな環境に適応し、多様
化を遂げた昆虫から強い・美しい・不
思議なカタチなどの特色を持つ昆虫たち
を紹介しました。



企画展「春待ちロゼット
ー冬を越す野草の姿ー」
(12月12日～1月31日)

展示案内を発行
(3月1日)



企画展「無線電話で
たどる通信技術史」
(2月20日～4月11日)



サイエンススタジオ公開
(4月1日)



3・4日には記念撮影会を開催しました。

企画展「学ぼう!電気が創る未来、
体験しよう!電気のサイエ
ンス」
(10月9日～11月28日)



企画展「生誕100年ノーベル物理
学受賞者 南部陽一郎」
(10月9日～11月28日)



クリスマス実験バトルを
ライブ配信(12月25日)



企画展「見たことあるカイ?
知ってるカイ?～貝の世界・
不思議発見」
(2月19日～4月11日)



2022年度
(令和4年度)

山中俊治氏、第二代名誉館長に就任
(4月1日)



〈プロフィール〉
1957年 松山市生まれ
愛光学園 東京大学工学部卒
東京大学大学院 情報学環／生産技術研究所教授
デザインエンジニア
愛媛県出身。大学の研究者とデザイナーとしての顔を持ち、Suica改札機、自動車、携帯電話等のデザインを手掛けるほか、技術者として、ヒューマノイドロボットやアスリートの義足の開発などにも携わっています。
(写真は7月4日に来館した時の様子です。)

真鍋淑郎ノーベル物理学賞受賞
記念展示(4月1日～10月2日)



特別展「物理学者が出会った美の世界
カレイドスコープワンダーランド」
(7月16日～9月19日)



万華鏡の模様が鏡による光の反射で生まれる仕組みを解説するほか、さまざまな万華鏡作家作品を展示しました。

企画展「スポーツの科学
と道具のひみつ」
(10月8日～11月27日)



プロ野球オールスターゲームの愛媛開催に合わせて実施しました。

講演会「生物がすむ
果てはどこだ？」
(11月6日)



特別展示「小惑星探査機「はやぶさ2」帰還カプセル&小惑星リュウグウのサンプル」
(6月10日～6月14日)



10・11日は、開館延長してプラネタリウムでも紹介しました。

企画展「愛媛の紙産業」
(12月10日～1月29日)



ナイトミュージアムを開催
(12月24・25日)



新型コロナウイルス感染症感染の流行以降で初めての開催となりました。

企画展「わくわく鉄道おもちゃパーク」
(4月23日～6月26日)



愛媛の鉄道史についても展示しました。

企画展「天体写真で見る宇宙」
(12月10日～1月29日)



愛光学園と連携協定を締結
(2月1日)



2023年度
(令和5年度)

企画展「科学捜査展」
(4月22日～6月25日)



愛媛県警察音楽隊の
コンサートを実施
(5月28日)



企画展「科学捜査展」の関連イベントで実施しました。

特別展「みんなあつまれ！
昆虫王国」
(7月15日～9月24日)



強さを誇るカブトムシやクワガタムシ、美しさが際立つチョウ、擬態の名人であるコノハムシなど、特色豊かな昆虫たちを紹介しました。



企画展「標本で観る季語の
植物 秋冬編」
(12月9日～1月28日)



入館者数600万人達成！
(11月26日)



記念式典を開催しました。

企画展「プラネタリウムと愛媛」
(10月7日～11月26日)



ブラック星博士の特別投影を実施
(11月12日)



企画展「プラネタリウムと愛媛」の関連イベントで実施しました。

企画展「来島海峡と潮流信号所」
(2月17日～4月7日)



瀬戸内海国立公園指定90周年を記念して、県立の博物館3館が連携し、瀬戸内海がテーマの展示を開催しました。



2024年

南極・昭和基地ライブトーク
(3月23日)



南極・昭和基地と中継でつないでイベントを実施しました。

2024年度
(令和6年度)

指定管理者制度 第4期開始
(指定管理者伊予鉄総合企画株式会社
令和11年3月31日まで)

特別展「シン・忍者」
(4月20日～6月23日)



開館30周年記念特別展
「未来をつくる：科学とデザインの実験室」
(10月12日～12月1日)



山中俊治名誉館長が展覧会ディレクターを務め、初日には開展式を、11月3日には
名誉館長による講演会を開催しました。

開館30周年記念式典を開催(11月3日)

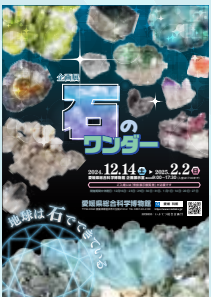


2025年

開館30周年のロゴマーク
を作成(4月)



開館30周年記念事業を
実施(4月～)



企画展「石のワンダー」
(12月14日～2月2日)

特別展「スリラー博士の恐怖の実験室」
(7月13日～9月23日)



「影の実験室」「音の実
験室」「恐怖のワームトン
ネル」など、光、音、錯視
の効果を体験できる
展示を行いました。

企画展「宇宙で食べる・
宇宙で生きる」
(2月22日～4月6日)



開館30周年記念誌を発行
(3月)